

ことわざ考



福島県市町村教育委員会連絡協議会長

加 賀 美代子

ある時、学生にレポートの提出は「六日の菖蒲」になら
ないようにと注意を促したら、げげんそうな顔をした。通
じなかつたらしい。時々、就職試験対策で故事ことわざな
どを懸命に暗記している姿を見るが、それは若者の生活か
ら活きたことわざが消えつつあるのだなと感じさせられる
ひとこまである。

ことわざには口調のよい短い表現の中に、機知に富み、
含蓄のある内容を盛り込んだものが多くある。その端的な
表現が世の中の人々の共感を得て、人々の会話の中に幅広
く取り入れられているのであろう。さらにつけ加えるなら、
ことわざは十分に表現された思想を一行の文に凝縮したも
のである。自分の言いたいことを簡潔に、しかも皆が知っ
ている形で表現できる点、使用する場所によっては威力を
発揮するものである。それ故に、長い歴史の中で人間が作
り出した文化であり、生活の知恵として、また人生の教訓
となつて定着してきたのである。

ところが最近、わたしたちの生活環境の変化によつて、
ことばがひとり歩きを始めるために、本来の意味と違った
ことわざの用い方が行われることがある。とくに、現代の
テレビなどのマス・メディアの発達には、ジョークをねら
うあまり、わざと誤用して人目を引こうとする企画が現わ
れる。つい最近までテレビドラマ「渡る世間は鬼ばかり」
が放映されていたが、その時「渡る世間に鬼はない」を連
想するとしたら、鬼はないは鬼ばかりはいないということ